

概要版

伊勢市 水道事業ビジョン

中間見直し

うま 美し水 つなぐ信頼 伊勢心 どころ



伊勢市

2019年度～2028年度(令和元年度～令和10年度)

生きていく上で欠かすことのできない「水」、それを皆さまのお手元にお届けするために「水道」はとても重要なライフラインの一つです。

伊勢市の水道事業では、厚生労働省の掲げる「持続」、「安全」、「強靱」という3つの観点と「～^{うま}美し水 つなぐ信頼 伊勢心～^{ごころ}」という理念のもと伊勢市水道事業ビジョンを平成31年3月に策定し、これまで5年間積極的に取組を推進してまいりました。

一方で水需要の減少に伴い給水収益が減少する中、施設の老朽化対策や耐震化にも取り組んでいますが、大規模地震の発生や災害の激甚化・頻発化、断水リスク等への対応等、取組むべき課題はたくさんあります。

このことから、これまでの事業の振り返りと見直しを行った「伊勢市水道事業ビジョン（中間見直し）」を策定しました。

～^{うま}美し水 つなぐ信頼 伊勢心～^{ごころ}

古来より多くの人を魅了してきた伊勢は、古より「^{うま}美し国」と呼ばれていました。市民の皆さまにいつまでも親しまれる水道水であり続けられるよう上記の理念を掲げています。



基本理念に基づく3つの観点

本ビジョンは中長期の将来を見据え、当面の目標年を10年後として策定したものです。以下の3つの観点から、それぞれの目標を達成するための具体的な実現方策を設定しました。

持続

健全で持続可能な
水道経営

安全

安全で安心できる
水道水の供給

強靱

災害に強いしなやかな
水道の構築

伊勢市水道データ



給水人口

(令和4年度決算)

120,630人



給水世帯数

(令和4年度決算)

57,743戸



年間総配水量

(令和4年度決算)

15,980,600m³

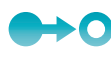
東京ドーム(124万m³)12.9個分



1人1日平均 使用水量

約320ℓ

お風呂の浴槽(250ℓ換算)
約1.3杯分



(送水・配水管)*

水道管総距離

(令和4年度決算)

約954km

※送水管・・・水源地から配水池に
水を送る管
配水管・・・配水池から各家庭や
事業所に水を届ける管



水道建設改良費

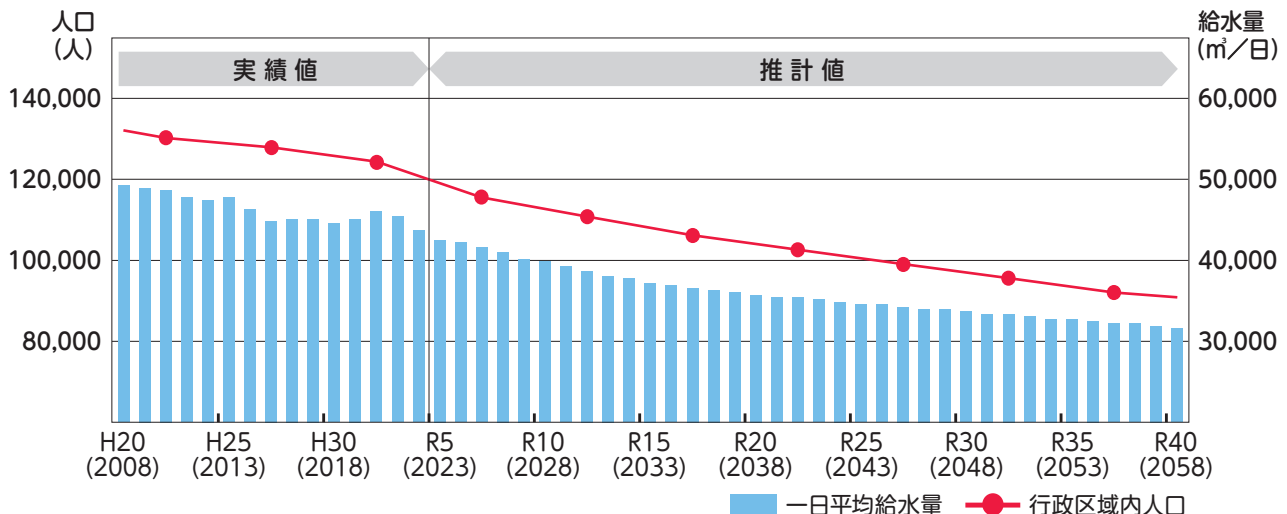
(令和6年度 事業計画)*

約18億2,700万円

※水道施設の更新や
新設にかかる費用

人口・給水量の予測

伊勢市の人口は、昭和の終わりまで増加傾向にありましたが、平成元年以降、減少傾向に転じています。今後も人口は減少が続く見込みとなっており、それに伴い給水量も減少傾向を示す見込みです。



持 続

健全で持続可能な水道経営

皆さまに安定した水を供給し続けていくためには様々な努力が必要です。施設の更新、維持修繕や効率的なシステムの構築、また、それを実行する職員の育成や技術継承、時代の変化に伴うニーズの変化にも柔軟に対応する姿勢も大切となってきます。

水道施設の最適化

【施設運用・規模最適化】

安定給水確保のために送水管・配水管を分離するとともに、水源地における施設運用の最適化を進めます。

【合理的な施設再編統廃合の推進】

水道施設の効率的な運用のため、統廃合の検討を行います。

【老朽管の更新】

市内には老朽管が多数存在し、漏水事故などの懸念があることから老朽管更新を積極的に行います。また、水道管路管理システムを使用した老朽管更新の進捗や状況の管理を行います。

新 【水道施設の点検と維持・修繕体制の強化】

国のガイドラインに基づき、水道施設の点検を含む適正な維持や修繕を行います。



【宮川水管橋】

運営基盤の強化

【アセットマネジメントによる水道施設の更新】

平成30年度に実施した資産管理(アセットマネジメント)の手法により、引き続き水道施設の計画的な更新を進めます。

【官民連携、広域連携の推進】

現在、施設管理業務や料金徴収業務等に民間のノウハウを活用しています。今後は、より効率性を高めることのできる官民連携の方向性を検討していきます。また、「三重県水道広域化推進プラン」に基づき、三重県水道事業基盤強化協議会等の中で、営業業務の共同化や施設の共同設置・共同利用などの検討・協議を進めていきます。

人材育成と組織力の強化

【運営管理体制の強化】

市民サービスの向上や業務の効率化が図れるように民間委託等を含めた組織体制を整備し、職員数の適正配置、技術を継承できる体制づくりの推進など人事管理体制の充実を図ります。

【職員の能力向上と技術継承】

研修などに積極的に参加し、職員一人ひとりのスキル向上に取り組めます。また、若手職員に対してはOJT*の手法を活用するなど人材育成を推し進め、将来の水道技術の確保につなげます。

*「On-The-job-Training」の略称。実際の職務現場において、業務を通して行う教育訓練のこと。

利用者サービスの向上

【水道利用者の声を反映する経営】

決算情報や各種計画について、ホームページ等を通して公表するとともに、各種イベント等において実施するアンケートから市民ニーズをとらえ、事業経営に活かしていきます。

【広報活動の充実】

水道事業についてよりよく知っていただき、水道が身近に感じてもらえるように、ホームページや上下水道部だよりの充実、市内の各種イベント等への参加を継続して行います。



【上下水道部だより】

環境対策の推進

【環境負荷の低減】

これまでも工事中に発生する再生資材の利用や建設発生土の有効利用等を実施していますが、今後も継続して資源の有効利用等を推進していきます。また、省エネルギー対策に取り組むとともに、新庁舎建設において太陽光発電を採用するなどカーボンニュートラルに取り組めます。



安全で安心できる水道水の供給

平成28年度に作成した「伊勢市水安全計画」を基に、適切にリスク管理を徹底し、水源環境の変化へしっかり対応するため、定期的に計画の内容を検証し、水質管理の適正化を図っていきます。

水質管理の強化

【水質管理体制の強化】

伊勢市では自己水源が約7割を占め、残りの約3割は三重県より受水しています。自己水源については原水及び給水栓末端部の水質検査を、三重県からの受水については、水質情報を共有し、継続的な水質管理をそれぞれ徹底していきます。また、水質検査結果はホームページで公表していきます。

【水安全計画の適正な運用】

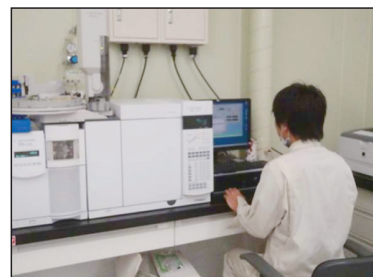
水安全計画に基づき、水質監視・施設管理・運転制御など、継続し監視していきます。

【クリプトスポリジウム等対策】

クリプトスポリジウム等の指標菌が検出された場合には、「水道におけるクリプトスポリジウム等対策指針」に基づき、原水の水質監視を徹底します。

新 【PFOS及びPFOA等対策】

PFOS 及びPFOA 等については、国における対応を注視しながら情報収集に努めるとともに、定期的に水質検査を実施し、継続した管理を徹底することで安全な水道水の供給に努めます。



【水質検査状況】

強 靱

災害に強いしなやかな水道の構築

地震などによる災害時を想定した対策も重要な課題です。被害を最小限に抑えるための耐震化事業、また災害後の応急対策や迅速な復旧を行うための危機管理体制の強化を着実に進めていきます。

耐震化の推進

【基幹施設の耐震化】

基幹施設については引き続き耐震診断を実施し、耐震性がないと確認された施設は、耐震化(補強、更新)を進めていきます。

【基幹・災害時重要給水施設管路の耐震化】

災害時重要給水施設(災害対策本部、基幹病院、避難所等)への配水管について、優先的に耐震化を進めていきます。



【配水本管布設替工事】

応急対策の充実

新 【応急復旧・給水体制の構築】

災害リスクの少ない小俣浄化センター跡地に新たに上下水道部庁舎を建設し、通常業務のほか非常時における応急対策の充実を図ります。

【危機管理体制の強化】

防災マニュアルに基づき、地震等の災害時における応急復旧や応急給水体制の充実を図ります。



【上下水道部庁舎(イメージ)】

新 災害対策の強化

【水道施設の耐水化対策】

浸水被害が予想される水道施設において、耐水化対策を行います。

【水道施設の土砂災害対策】

土砂災害警戒区域等に存在する水道施設において、土砂災害対策を行います。

【緊急時バイパス管の整備】

水道施設が地震や風水害等により被害を受けた際、影響を最小限に抑えるための緊急時バイパス管の整備を行います。



【中須水源地水道管理センター】

投資・財政計画 安定した事業経営を目指して

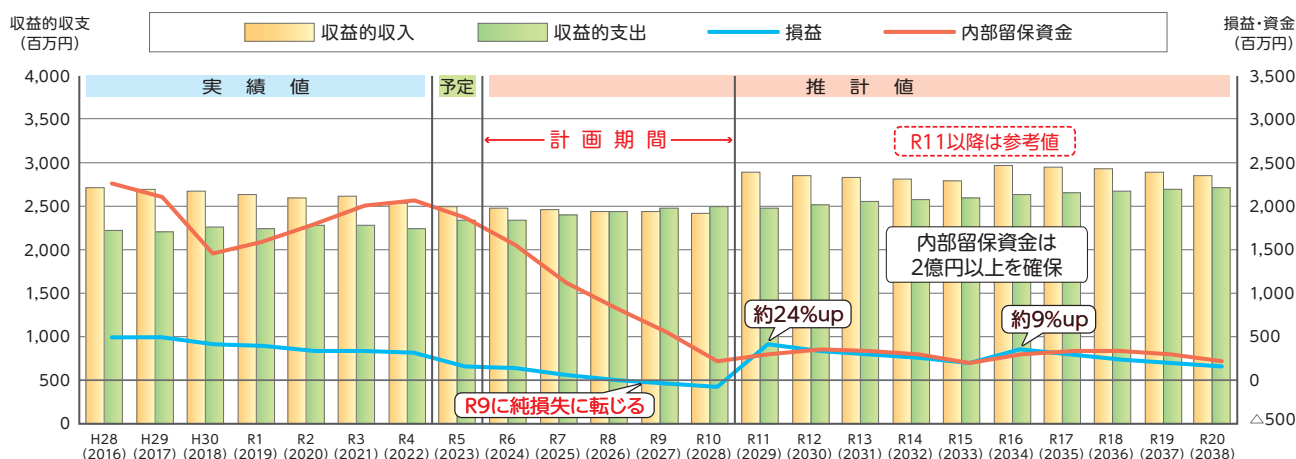
水道事業ビジョンに沿って実施する施策・事業を反映し今後の給水収益の減少や経費の増加を見込み、着実に施設の更新や耐震化などの災害対策を推進し安定した事業経営を行うため、令和10年度までの投資・財政計画を策定しました。

【投資計画】本ビジョンの計画期間10年間に約160億円の投資を見込みます。

単位:百万円

事業区分	工種	事業費	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)
更新事業	構造物・設備	5,362	402	254	282	399	767	507	555	663	717	816
耐震化事業	構造物	714	0	0	0	8	10	78	94	226	185	113
	管路	2,814	144	341	217	197	269	293	401	338	309	305
庁舎建設事業	構造物	766	0	0	0	0	37	372	357	0	0	0
その他事業	構造物・設備・管路	6,331	844	803	636	762	903	577	599	428	373	406
総事業費		15,987	1,390	1,398	1,135	1,366	1,986	1,827	2,006	1,655	1,584	1,640

【財政計画】収益的収支において令和9年度に純損失に転じます。令和11年度から令和20年度までの中長期財政シミュレーションの結果、健全な水道事業を維持していくためには、給水収益を令和11年度から約24%、さらに、令和16年度から約9%増収とする料金改定が必要になります。



目標とチェック体制

目標達成の上で効果的であると考えられる「戦略的業務指標」を用いて、事業効果を定量的に確認・検証します。

■戦略的業務指標の目標値

業務指標	指標の意味	単位	目指す方向	実績値		目標値	
				平成29年 (2017)	令和4年 (2022)	令和10年 (2028)	
持続	有効率	年間配水量のうちの年間有効水量の割合	%	↑	89.0	87.4	89.8
	管路の更新率	全体のうちの1年間に更新した管路延長の割合	%	↑	1.08	1.04	1.00
	経常収支比率	経常費用に対する経常収益の割合	%	↑	121.4	113.9	100以上
安全	水源の水質事故件数	年間の水源地水質事故件数	件	↓	0	0	0
強靱	配水池の耐震化率	全体のうちの耐震化済み配水池有効容量の割合	%	↑	37.8	66.7	90.4
	管路の耐震化率	全体のうちの耐震化済み管路延長の割合	%	↑	17.5	21.0	27.3
	基幹管路の耐震化率	基幹管路のうちの耐震化済み管路延長の割合	%	↑	34.6	41.6	48.4

